「東日本大震災への災害派遣を経験して」

警備部機動隊（男性）

私は隊員時代、新潟梅雨災害、新潟中越地震を経験し、そして今回分隊長として東北地方太平洋沖を震源とする大震災の救助捜索活動を経験させて頂きました。今回の派遣で私が今まで経験した災害派遣と違った点は、災害発生後直ぐに出動し、現場活動に従事したことです。大きな傷跡が残る現場の壮絶さや悲惨さを身に沁みて感じました。

我々は災害発生後被災した傷病者の生存率が極めて高い72時間の間、現場へ赴き、組織の枠を越えて救出救助活動を行うという任務のもと、余震や津波警報そして原発事故と、情報が錯綜し、携帯電話や、広範囲に及ぶ捜索活動により無線も通じず、部隊若しくは部隊員が孤立してしまう虞がある状況の中、活動自体もままなりませんでした。

そのような状況下においても各隊員『一人でも多くの生存者を救出しよう』という信念を途切れさせることなく持ち続け現場活動に従事していましたが、現状は、生存者の方は皆無であり、津波で流された瓦礫の山や車両等からは御遺体が次々と発見され、収容、搬送活動に手が追いつかない状況でした。

私はどこかで生存者の方が救助を待っているという思いと、次々に発見される御遺体の収容、搬送活動にあせりを感じながらも、同じ被災者でもある地元の警察官が不眠不休の活動を行い、被災し、肉親が行方不明のままの家族への対応に追われる姿を目の当たりにし、生存者の救出活動だけでなく、御遺体といえども大切な御家族を一人でも多く家族の元へ帰してあげることも重要な任務だと改めて実感しました。

今後も続く派遣活動ですが、自分が従事させて頂けるあらゆる活動に最大限の責任を持ち、一日も早い復興に尽力させて頂きたいです。